



# 「議員と語ろう会」実施報告

—開かれた議会運営の取り組み—

議会活性化特別委員会

## はじめに

本報告書は、令和7年11月29日に市内8会場で開催した「議員と語ろう会」について、その実施内容を整理し、成果と課題を明らかにするとともに、今後の改善に向けた方向性を示すものである。

本事業は、市民の皆さまからいただく声を議会運営や政策形成に生かすことを目的とし、あわら市議会が掲げる「開かれた議会運営」を実践する取り組みである。議会が一方的に情報を提供するのではなく、市民と議員が同じ目線で率直に語り合い、地域の課題を共有することに、その本質的な価値がある。

今回は 地区を対象とした開催方式を採用した。これは、高齢者を含む幅広い住民が参加しやすく、地域に密着した対話を実現するためであり、議会活性化事業の中でも特に重要な位置づけと考えている。地区開催で得られる住民の声は、地域の実情を最も反映したものであり、今後の議会活動にとって不可欠な基盤となる。

また、会場を8か所に設定したのは、議員の公平性を担保するためである。会場選定とペアリングは、期別年齢順を基本とし、リーダーを先頭に、昨年度および過去の実績を踏まえて決定した。なお、開催日との関係上、選択ができない施設も存在するが、公平性を最優先した配置とした。

本事業は単発のイベントではなく、これまで継続して取り組んできた重要な活動である。さらに今後は、次の三層の年間体系を整備し、市民の多様な声を議会活動へ反映する仕組みを強化していく予定である。

### 三層構造

- 秋の地区開催（本事業の基軸）
- 春の一般住民向け開催（新たな試み）
- 通年の団体ヒアリング

本報告書は、今回の地区開催で得られた住民の声を基軸として、春開催へ向けた改善の方向性を示すものでもある。議会活性化特別委員会として、より参加しやすく、より対話が生まれる場づくりを進めていく。

## 第1章 イベント開催概要

本イベントは、市民と議員が直接意見を交換する場を設けることで、議会への理解を深め、市民の声を幅広く把握することを目的に実施しました。

少人数で率直に意見を交わせるワールドカフェ方式を採用し、市民と議員が同じテーブルを囲むことで、心理的安全性を確保した対話の場となるよう配慮しました。また、議会事務局が同行せず、議会活性化特別委員会を中心に全議員が主体となって運営を行ったことも、本事業の特徴です。

市民が参加しやすい環境を整えるため、市内8会場で昼夜2部制の分散開催とし、地域特性に応じた参加機会を確保しました。

### ▼ 主な実施内容

- 目的：議会への理解促進、市民意見の収集
- 開催日：令和7年11月29日（土）
- 形式：ワールドカフェ方式（少人数での対話）
- 運営体制：議会活性化特別委員会を中心に、全議員が会場運営を担当
- 開催方式：市内8会場での昼夜2部制

### ▼ 公平性を担保した会場配置・ペアリング方法

本事業では、議員の活動機会に偏りが生じないように、公平性を担保する仕組みを明確に設けた上で会場配置を行いました。

- 会場は市内8会場を設定し、議員が地域にまんべんなく赴く仕組みとした。
- 班構成およびペアリングは、期別年齢順によって決定し、特定の会場に負担が集中しないよう配慮した。
- 会場選択にあたっては、リーダーを先頭に、昨年度および過去の担当実績を踏まえつつ、各議員の負担が均等となるよう調整を行った。
- なお、都合上、利用できない施設が一部あったため、その範囲内で最適な組み合わせを設定した。

この公平性の確保は、本事業を継続的に実施するうえで重要な基盤であり、議会全体としての透明性と信頼性向上につながるものです。

## ▼ 会場一覧（昼4・夜4）

時間帯	会場名	担当班
昼（13:30-15:00）	伊井公民館	1班
昼（13:30-15:00）	北潟公民館	2班
昼（13:30-15:00）	坪江公民館	3班
昼（13:30-15:00）	本荘公民館	4班
夜（19:00-20:30）	吉崎公民館	1班
夜（19:00-20:30）	細呂木公民館	2班
夜（19:00-20:30）	湯のまち公民館	3班
夜（19:00-20:30）	IKOSSA	4班

## ▼ 広報実施内容

市民への周知は以下の方法で行いました。

- 10月下旬：全区長へチラシ配布（郵送・ポスティング・手渡し）
- 11月15日：区長による回覧板で全区へ周知
- あわら市公式LINEでの配信

多層的な周知を行い、地域全体への情報伝達を図りました。

## 第2章 開催結果と参加者データの分析

全8会場での参加者数は以下のとおりです。

会場名	時間帯	参加者数（人）
伊井公民館	昼	2
北潟公民館	昼	5
坪江公民館	昼	1
本荘公民館	昼	1
吉崎公民館	夜	0
細呂木公民館	夜	11
湯のまち公民館	夜	5
IKOSSA	夜	5
合計		30

## ▼ 主な分析結果

### (1) 全体傾向：昼より夜の参加が多い

夜の部の参加者は21名で、昼の部（9名）の約2倍となった。アンケートでも「夜の方が参加しやすい」という意見が複数確認され、市民の生活スタイルに沿った時間帯設定が重要であることが示された。

### (2) 地域差が明確に表れた（吉崎地区の状況を含む）

細呂木公民館は11名と最多で、地域コミュニティの結束や、公民館活動の活発さが影響したと考えられる。一方で吉崎公民館は参加者が0名であったが、これは単なる不参加ではなく、地区の事情による要因が明確に存在した。

- 当日、吉崎地区では 地域行事が開催されており、日程が重複した
- 区長から重複の連絡があったものの、全市一斉開催のため 日時変更は困難であった
- 行事には地区役員・青壮年団が参加しており、結果として会場に来られる住民がいなかった

これらの状況から、“地域行事と重なった場合、一般住民の参加は極めて難しくなる”という課題が改めて浮き彫りになった。

すなわち、地域ごとの年間行事や公民館活動の状況を把握した上で開催日時を検討することが、より多くの住民参加につながる可能性が高い。

### (3) 参加者アンケートの分析（要点集約）

アンケートから得られた意見には次の特徴が見られた。

#### ① 議員と直接話せる場として高く評価

- 「身近に感じた」
- 「普段聞けない話が聞けた」
- 「気軽に話せた」

ワールドカフェ形式の効果が明確に示された。

#### ② 周知そのものへの不満は少ない

回覧板・ポスティング・LINE等、多層的な広報を行っていたこともあり、「知らなかった」という声は限定的であった。ただし一部で、「テーマが分かると参加しやすい」「会場の距離が負担」といった、広報“内容”に関する改善点は示された。

しかし、今回の開催ではチラシ内で相談内容を明確に提示しており、テーマ不足が参加者減の直接要因とは言い切れない。また、テーマ別に会場を設ける方式（例：子育て会場・福祉会場など）は過去に実施例がなく、今回の事業は地区単位の開催方式である。そのため、アンケートに寄せられた一部意見は今後の改善アイデアとして参考になるものの、今回の集客結果を説明する主因ではない。

→ 分析としては、

“テーマ設定が集客に必ず結びつくわけではなく、地域事情・生活時間帯・公民館との距離感などの複合要因が参加行動を左右している”という点が浮き彫りになった。

#### (4) 分析まとめ

本章の分析から、次の主要なポイントが明らかになった。

- 1.夜間のほうが参加しやすい住民が多い
- 2.地域コミュニティや行事の有無が参加人数を大きく左右する
- 3.テーマ設定よりも、会場配置・日程・広報内容が参加行動に影響
- 4.形式（ワールドカフェ）は高く評価され、参加者満足度は高い
- 5.今後は、地域特性に合わせた設計（日時・会場）が重要になる

これらの結果は、次章「運営上の評価：成功要因と課題」でさらに深めるべき重要な示唆である。

## 第3章 運営上の評価：成功要因と課題

第2章で確認した参加データおよびアンケート結果を踏まえ、本章では今回の「議員と語ろう会」における成功要因と課題を整理し、次回開催に向けた改善の方向性を明確化する。

### (1) 成功要因 (Strengths)

#### ① ワールドカフェ方式による対話の質の向上

少人数で向き合って話す形式は、参加者から高い評価を受けた。「話しやすかった」「普段聞けない話が聞けた」などの意見が示すように、市民の本音を引き出す場として効果的であった。

② 議員主体の運営による心理的距離の近さ

議会事務局は同行せず、議員が主体的に会場設営・受付・進行を担った。その結果、市民との心理的距離が縮まり、「議員が自分たちのところに来てくれた」という住民の実感につながった。

③ 地域開催による負担軽減

今回の開催は 地区を対象とした開催方式であり、市内各地域での開催により、「移動しやすい」「身近に感じる」といった声が寄せられた。特に高齢者や車の運転に不安がある層にとって参加障壁を下げる効果があった。

(2) 課題 (Weaknesses)

① 参加人数に顕著な地域差が生じた。

細呂木 (11 名) に対して吉崎 (0 名) など、地域特性や行事日程により参加者数に大きな差が生じた。コミュニティの結束度、地域行事の状況、公民館の利用頻度など、地域に根ざした要素が強く影響したと考えられる。

② 日程調整の難しさ

吉崎地区では地域行事と開催日が重なり、住民参加が困難となった。全市一斉開催とする場合、地域行事との重複を完全に避けることは難しく、今後の運営における大きな課題である。

③ 会場ごとの参加しやすさの差

公民館までの距離、駐車場の有無、夜間に外出しづらい住民層など、参加しやすさに地域差が存在した。アンケートにも「会場が遠い」「夜は出づらい」といった声が見られた。

④ テーマ設定と広報内容の最適化

アンケートでは「テーマがあると参加しやすい」という声があったが、今回のような地区開催方式では、開催目的が“地域での対話”にあるため、テーマ設定が必ず集客につながるとは限らない。今後は地域事情に応じ、「どの地区で何を話すと住民が来やすいか」という視点で広報内容を工夫する必要がある。

### (3) 改善に向けた示唆 (Opportunities)

上記の成功要因と課題を踏まえると、次回開催に向けて以下の点が改善余地として示唆される。

#### ① 地域行事との日程確認や柔軟な開催方法の検討

全市一斉開催の利点はあるが、地域行事と重複した場合に参加が困難となるため、地区ごとの開催日調整や複数日の分散開催などの検討が必要。

#### ② 会場選定の見直し

参加実績・地域特性・アクセス性を踏まえた最適配置を行うことで、より多くの住民にとって参加しやすい環境を整えることができる。

#### ③ 広報内容の改善

広報手段自体は多層的で機能していたため、今後は「相談できる内容の明確化」「その地区ならではのテーマ設定の工夫」など、“選ばれる広報”を目指す段階へ移行する。

#### ④ 対話形式の磨き込み

参加者から評価の高かったワールドカフェ方式に、ファシリテーターの配置や書記役の設置など“質を高める工夫”を積み重ねることができる。

## 第4章 総括

本年度の「議員と語ろう会」は、地区を対象とした開催方式により、市内8会場で実施した。参加者数や地域差といった課題は見られたものの、市民と議員が率直に対話できる貴重な機会となり、本事業が持つ本質的な価値を改めて確認することができた。

特に、議員自ら地域へ足を運び、市民の声を直接伺う姿勢は、議会への信頼向上に欠かせない取り組みであり、今後も継続していくべき重要な活動である。

地域開催を通じて得られた住民の声は、今後の事業改善に向けた基盤となるものであり、これらの声を起点として、次回の春開催では新たな試みを導入していく。春開催は、より広い一般住民をターゲットとし、地区開催とは異なる視点での参加機会を創出する予定である。

これにより、本事業は以下の体系で年間を通して運用される方向性が見えてきた。

- 通年開催（団体対象）：団体・組織からの意見を伺う場
- 春開催（個人対象）：一般住民を対象とした新しい形の意見交換
- 秋開催（地区対象）：地域の声を直接伺う、事業の基軸となる開催方式

この 3 層構造を確立することで、議会として多様な層の市民の声を収集し、政策形成や議会運営に生かす循環をつくることができる。

ただし、本事業の基軸はあくまで“地区開催”である。高齢者の移動負担や距離の問題、地域に根ざした対話の重要性を考慮すると、地区開催は最も参加しやすく、市民にとって身近な対話の場として不可欠である。

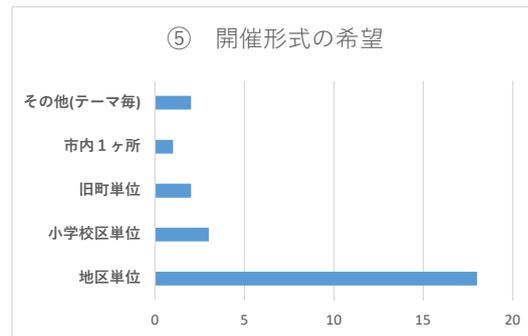
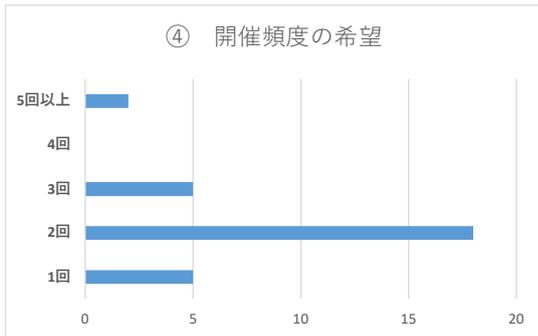
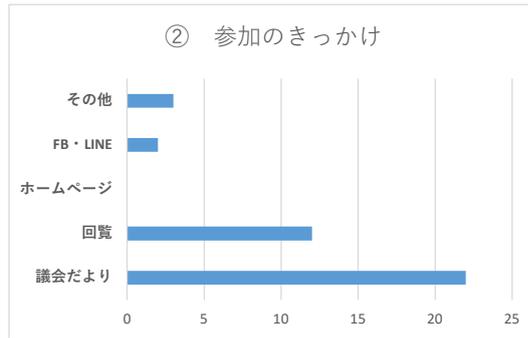
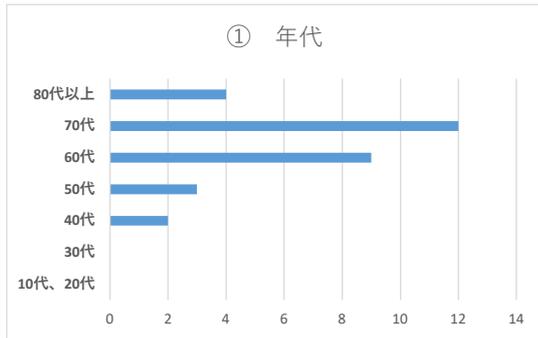
今回得られた成果と課題を真摯に受け止め、

- 地域差を踏まえた広報内容の改善
- 開催方式の見直し
- 春開催に向けた新たな取り組み
- 運営体制の強化
- フィードバックの仕組みづくり

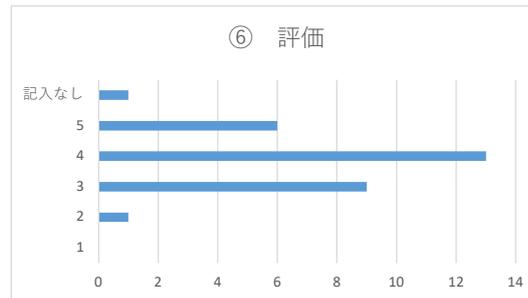
を継続的に進めていくことで、事業全体の質を高めていきたい。

議会活性化特別委員会として、引き続き、市民の皆さまと対話を重ね、議会と地域をつなぐ役割を果たしてまいります。

第23回あわら市議会「議員と語ろう会」アンケート集計結果



③参加理由
区長会会長として、地区の要望の進捗確認と市政に反映させるため
区長会長の呼び込み
議員の考えを聞く。自分の思いを伝える。
立场上参加
市政について関心があるから
市民の方の考えも聞きたいと思った
何でも知りたい
地区の盛り上げ。議員活動のコストパフォーマンスを上げてほしい。
あわら市の将来について不安
ワクチンへの予算を反対したから、自分も
議員のメンバーが変わったので、どのような考えを持っていらっしゃるのかなと思った。
要望があったから
業務の参考になるから
災害時の備品等
区長として
あわら市について聞きたいことがあった為
呼ばれた
議会に関心があるため
次年度地区役員への情報伝達
区長の誘い
いろいろと話がある。
下水道、水道管調査について。廃墟となったホテルについて。防犯カメラ設置について。
情報交換ができると思い参加した。
地区役員をしているので、問題を提起したい。
あわら市（行政）への橋渡し役として働いていただいている議員さんと意見交換をするため。



⑦自由記述
意見を事前収集するなど、充実した時間になるように
テーマに絞って、深掘りする必要がある。
具体的なことがあまりなかった。
出席者数を増やす対策が必要か
参加人員が少しでも多くなるように広報してほしい。
若い世代の意見を聞きたい。
もっと参加者が増える方法はないか。
要望の結果を報告してほしい。
なるべく要望活動を制限した方が、議論が深まると思う。
テーマを絞った方が良かった。
次回も開催した方がいい。
参加数を増やす、区民に働きかける。
少数の参加の為話がはっきりできた。
北潟地区の方たちの地域への熱い思いが伝わり、参考になりました。

## ●議員と語ろう会

対象地区	会場	令和5年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
		6月3日	12月2日	6月1日	11月29日
		テーマ 3月定例会の概要報告	テーマ 子育て・福祉・駅前活性化・ 農業・商業・工業・観光業	テーマなし	テーマなし
温泉地区	湯のまち公民館	9	-	8	5
本荘地区	本荘公民館	1	-	-	1
	本荘小学校	-	-	7	-
新郷地区	中浜区民館	6	-	-	-
北潟地区	北潟公民館	10	-	-	5
	北潟小学校		-	9	-
波松地区	波松区民館	16	-	-	-
金津地区	金津本陣IKOSSA	2	-	-	5
	中央公民館	4	-	3	-
細呂木地区	細呂木公民館	7	-	6	11
	細呂木ふれあいセンター	-	-	-	-
吉崎浜坂地区	浜坂区民館	-	-	-	-
	吉崎公民館	6	-	-	-
坪江地区	坪江公民館	10	-	5	1
劔岳地区	劔岳公民館	3	-	-	-
伊井地区	伊井公民館	13	-	-	2
	伊井小学校		-	9	-
	アフレア	-	35	-	-
計		87	35	47	30